



海外視察レポート

ぶぎん海外視察

中国・華南地区視察ツアー報告

ぶぎん地域経済研究所 調査事業部副部長 藤坂 浩司



はじめに

ぶぎん地域経済研究所は2019年11月19日ー23日まで4泊5日の日程で、中国・華南地区（東莞、深圳、マカオ、広州）を訪ねました。今視察は、経済成長著しい中国の中でも“グレートベイエリア”と呼ばれ、世界の先進都市を目指す中国の模範地域で、現地の最新技術などを巡る目的で企画しました。視察には事務局を含めて12名が参加し、日系企業2社とスタートアップ企業向けインキュベーションオフィスを視察したほか、世界最大と言われる深圳の電気街、華強北路やキャッシュレススーパーなど

を見学しました。また、視察後半では観光都市、マカオを訪ねました。

今回の視察は、激しい反政府デモが続く香港を避けるルートで、周辺の4都市を5日間で巡りました。視察の前半は、中国政府が新たな地域発展計画に位置付ける「広東・香港・マカオグレートベイエリア（粵港澳大湾区）」計画の中で、ハイテク企業やスタートアップ企業が集積する深圳市と、中国の製造業の中心都市の1つ、東莞市を訪ねました。グレートベイエリアとは、中国政府が米国西海岸のサンフランシスコ湾を中心とするベイエリア、日本の東京湾を中心とするベイエリアを念頭に、それを超えた地域に発展させようと命名したものです。

■視察先と内容

東莞	11/19	移動日
東莞、深圳	11/20	東莞京濱汽車電噴装置有限公司
		創世訊聯科技（深圳）有限公司
深圳、マカオ	11/21	唯來企業管理諮詢（深圳）有限公司
		華強北路、マカオ
マカオ、広州	11/22	聖ポール天主堂跡、聖ドミニコ協会、セナド広場
広州	11/23	帰国

中国・華南地区





テンセントの新社ビル

その中心都市である深圳市は 1979 年に初めて市に昇格し、翌 1980 年に深圳経済特区に指定されました。それ以降、急速に発展を遂げたことで知られています。深圳市の面積は 1,952 平方メートルで、2018 年現在、常住人口が 1,302 万人と東京都の人口とほぼ同じ規模です。また、深圳市の GDP は市誕生当時の 1.96 元から 2018 年現在では約 1.2 万倍の 2.4 兆元へと飛躍的な成長を遂げました。現在、深圳市にはグローバル企業に成長し中国の IT 企業を代表する BATH(B/AI/ドゥ)、(A/AI/ババ)、(T/テンセント)、(H/ファーウェイ) のうち、テンセントとファーウェイが本社を構えるほか、ドローンの世界市場でシェア No1 の DJI、中国 EV (電気自動車) メーカー大手の BYD など先端技術分野の企業が本社を構えています。

こうした成長企業を追いかけるように、深圳では IT 分野を中心にスタートアップ企業が数多く生まれています。深圳市の統計によれば、2018 年に深圳

市で創業した企業数は約 29 万社で、1 日平均 800 社 (前年対比 42.7%増) が誕生している計算になります。また、外資系企業も同じ 2018 年には月間平均で 1,319 社が誕生しました。こうした環境を背景にして深圳市には多くの若者が集まっています。同市住民の平均年齢は 33 歳と、他の中国国内の都市よりも若いのが特徴です。視察中、スタートアップ企業が集まる市内南山地区を歩いていると、多くの若者が行きかう姿を見かけ、さながら大学のキャンパス内を歩いている雰囲気でした。

一方、製造業が多く集まる東莞市は神奈川県とほぼ同じ 2,465 平方メートルの面積で人口が約 830 万人です。東莞市は深圳市と同じ広東省の都市で、北側は広東省の省都である広州市、南側は深圳市と接しています。東莞市は歴史的にエレクトロニクス産業を中心に発展してきましたが、その後、隣接する広州市に日系を含めて自動車産業が多く集積するようになったことから、自動車関連事業者の進出も多く見られます。外資系企業の進出が多い都市としても知られ、進出企業 12,150 社のうち日系企業は 474 社 (2017 年東莞市統計) にのびります。



企業視察 1

東莞京濱汽車電噴装置有限公司

滞在 2 日目の午前、一行は自動車部品メーカー、株式会社ケーヒンの 100% 出資現地法人「東莞京濱汽車電噴装置有限公司」を訪問しました。同社は 2002 年 3 月に設立された企業で、四輪車用電子制御式燃料噴射装置や電子制御ユニットなどを生産し、中国国内に展開するホンダ系の生産法人や日本、欧米の自社グループ企業に製品を輸出しています。到着後、まず長岡隆弘董事兼総経理から東莞市の概況や会社説明を受けました。同社は拡大を続ける中国の自動車市場を追い風に、「事業は着実に拡大しており、コアコンピタンスの応用でハイブリット車や電気自動車向け空調システムや電子制御システムなど、これから中国で拡大が見込まれる電動車の領域にも力を入れている」(長岡董事兼総経理) とビジネスが好調である様子を理解することができました。



东莞京浜の集合写真

その後、班に分かれて工場見学を実施。5種類の工場のうち、まず電子制御スロットルボディの铸造を行う铸造工場を訪れました。大型の铸造機が大きな音を立てて次々と製品が加工される様子を一同、熱心に見学しました。次に、バルブとシャフトの加工ライン、樹脂成型工場を回りました。樹脂成型工場では、製品に組み付ける部品点数が多いことから、現状では人海戦術で作業を進めています。今後は自動化に取り組む考えを聞きました。また、工場内の各所でロボットが多用されていました。その理由については、人件費よりもロボットの方が安く、「中国では低賃金で生産するモデルはもはや通用しな

い」(志村唯行秘書室長)と説明を受けました。工場見学後、参加者からは、中国人従業員に対する目標管理の設定などについて多数質問が出されましたが、1つ1つの質問に丁寧に回答下さり、一行は同社を後にしました。



企業視察2
株式会社ジェネシスホールディングス
創世訊聯科技(深圳)有限公司

昼食を挟んで一行は午後、东莞から高速道路で1時間ほど離れた深圳市内にある株式会社ジェネシスホールディングスの深圳工場を訪ねました。同社はEMS(電子機器の製造受託サービス)と呼ばれる製



ジェネシス社の集合写真
(写真後列中央・白い服の男性が藤岡社長)



ジェネシスホールディングスの深圳にある工場内風景



みらいコンサルティングの集合写真（上）
みらいコンサルティングの姜氏（下中央）

造業のアウトソーシング専門の事業者で、商品の企画検討から、製品設計、試作品製作、量産品製造までを一に行うのを特徴としています。到着後、早速、創業者で現社長の藤岡淳一氏から創業に至る経緯や、中国ビジネスの現状、同社のビジネスモデルなどについて話を伺いました。藤岡氏は2001年、25歳の時に香港系の電子機器を中心とした輸入商社に転職し、同社の下請け工場があった深圳を訪問したことが深圳と関わる始まりとなりました。以来、18年にわたり深圳を中心とする中国でビジネスを手掛け、自身の経験を生かして2011年に同社を設立しました。

深圳市内にはジェネシスホールディングスと同様のEMS事業者が多数存在しますが、激しい競争から淘汰が起きていて、そうした中で同社は日本企業からの受託生産を専門に行う独自のビジネスモデルで業績を伸ばしています。現在までに、大手流通グループ向けのスマートフォンをはじめ、AI通訳機「ポケトーク」やタクシーの表示端末など、エレク

トロニクス製品の開発が本業ではない企業の製品を中心にビジネスを展開しています。これまでに取扱った製品は全600製品、計500万台以上を製造した実績を持ちます。こうした積み重ねを背景に業績も、2017年の売上高13億6,200万円から2019年に60億円を見込んでいます。説明終了後は早速、事務所に隣接された組立ラインを見学しました。20代の女性を中心に240人が働いており、手際よく製品の組立や検査などを行う工程を、参加者一同、熱心に見学しました。



企業視察 3 みらいコンサルティング/ 唯来企業管理諮詢（深圳）有限公司

深圳滞在2日目の午前、みらいコンサルティング株式会社（本社東京）が2019年7月に開設したインキュベーションオフィスを見学しました。事務所は深圳市内の金融中心地、南山地区にあり、深圳市に進出を希望する日系企業のスタートアップ支援や現地の有望ベンチャー企業へのビジネスマッチングなどを手掛けています。

同社では、姜香花副総経理から深圳市の最新経済情勢や同市に特徴的に見られる研究開発系スタートアップ企業のケーススタディ、中国と海外のベンチャーキャピタルが深圳市内の企業に対する投資実績などについてなどを詳しい数値を交えながら説明を受けました。姜氏からは、深圳では1日あたり800社が新たに生まれるものの、早い企業で数週間、数年以内には3社のうち2社が消えてしまう競争の激しい地域であるとの説明に、参加者は驚かされました。

また、参加者から「日本では働き方改革が叫ばれているが深圳ではどうなのか？」という質問では、「中国でも労働者を守る法律はあるが、法律を適正に順守していたのでは、激しいグローバル競争には勝ち残れない。深圳の企業は法的リスクを覚悟しても社員を動かし、社員もそうした勢いのある企業で働くことが自分の経歴のステップアップにつながるために必死になって働く」（姜氏）と回答を頂きました。中国のベンチャー企業の実態を知る良い機会となりました。



深圳市内見学

深圳市内では中国の先進技術を見るために複数箇所を視察しました。まず最初に、スマートフォン決済の仕組みを活用した生鮮スーパー「盒馬鮮生（ハーマーシェンシャン）」を見学しました。この店舗の特徴は、買い物終了後の精算が、専用端末機にスマートフォンをかざして支払う仕組み（一部は従来の金銭支払いレジもある）であるほか、届け先が店舗から3キロメートル以内であれば、ネットで注文すると店員が注文書を基に商品をカゴに入れて集め、商品が揃うと、店内の天井部に設置されたケーブルをカゴが伝って店舗の外で待つ配達員に渡されて、バイクで購入者の元に30分以内に届くことを売り物にしています。空中を商品が移動するなど日本では想像つかないサービスに参加者一同、興味津々でした。

また、日本ではスマートフォンのアプリケーションを使っての決済がようやく普及期に入ろうとしています。中国ではすでに顔認証決済が急速に普及しています。市内のコンビニエンスストアやスーパーなど随所に顔認証の専用端末を見かけました。

右上の写真は、東莞市内のセブンイレブンで撮影したのですが、レジ横に設置されたタブレットのカメラに顔をかざすと瞬時にして決済が終了する仕組みに、日本がこの分野で出遅れている現状を学ぶことができました。

さらに東京・秋葉原を参考にしたと言われる世界



コンビニエンスストアでの顔認証決済風景

最大の電気街、華強北路は、電子部品からスマートフォン、カメラ、ドローンなど最新のエレクトロニクス製品までを扱う店舗がビル全体に無数にひしめく地域として知られています。その規模は秋葉原の数十倍とも言われ、IT関係の店舗だけでも1万店はあると言われていています。華強北路は店舗数の多さだけではなく、販売される商品が安いのも特徴です。

例えば、日本で購入すれば1万円以上するカメラ付ドローンが2,000円から3,000円で販売されていたほか、日本でも人気のスマートウォッチやワイヤレスイヤホンが日本の市価の半値以下で売



生鮮スーパー店内の「キャッシュレス決済」システム



店内天井部をカゴが移動する風景



BYD社のショールーム

られていました。

また、深圳は世界最先端のEV（電気自動車）都市としても知られており、現在、深圳市内を走る路線バス全車両とタクシー全車両がEV車両です。視察団は深圳市の代表的なEV企業、BYDのショールームを訪問し、現地で販売されているEV車に試乗しました。

同社はトヨタ自動車と業務提携をしたことで知られていますが、エントリーモデルでSUVタイプ（上写真）のEVが日本円にして約160万円で販売されており、もしも日本で販売されることになれば、自動車業界に大きなインパクトを与えるのではないかと印象を受けました。

なお、深圳ではバスやタクシーを合わせた公共車両の全てと、多くの一般車両がEVであることから、中国の他都市に比べて排気ガスによる大気汚染が少ないそうです。



まとめ

今回の視察を通じて大きく2つのことを“実感”することができました。1つは、技術革新が進んだ時に、今後の私たちの社会生活がどうなるのか？

1つの先進事例を実感することができたこと。もう1つは、中国が威信をかける世界一の技術大国実現への本気度を実感することができたことです。日本でもキャッシュレスへの取組がようやく進もうとしています。中国では日本よりも遥かにキャッシュレス決済が進んでいて、決済方法もスマートフォンに加えて顔認証が一般的のようです。

さらに近い将来、スマートフォンは決済に不要になると現地で話を伺いました。スーパーやコンビニエンスストアでの買い物客が当たり前のように顔認証決済をしている風景は近未来的で、やがて日本社会もこうなるのだろうかと思いを受けました。しかし一方では、スーパーの一角に設置された小さなレジでスマートフォンを持たない高齢者が従来通り、現金で買い物をする姿も見られ、情報化社会のあるべき姿の難しさも垣間見ることができました。

また、今回の視察では、中国が米国の圧力を凌駕する勢いで発展を続けている姿を見ることができました。中国は習近平（シー・ジンピン）政権のもと、2015年5月に「中国製造2025」を発表し、建国100年を迎える2049年を目標に世界の製造強国トップを目指しています。華南地区は実



深圳市内を走るE Vバス



EV 車両／中国ではE Vなど新エネルギー車には緑色のナンバープレートが付けられ、一般車と区分けされている。

現に向けた中核地域であり、産学官連携の基、若者を中心に多くの頭脳が集まり切磋琢磨する様子は、世界一を目指すチャイニーズドリームの本気度を実感できました。政治や経済はその時々的情勢によって変動を繰り返しますが、技術は不可逆です。中国の技術革新の進化が今後、どのように世界に影響を及ぼすのか関心は尽きません。なお、視察団は後半、ジェットfoilで観光都市、マカオを訪れました。世界遺産に指定された聖ポール天主堂跡やマカオタワーを見学し、帰国の途につきました。

■視察参加者（敬称略）

社名	役職	参加者名
(株)石井オフィス	取締役	早上 鉄平多
ACS(株)	取締役	魚本 信一郎
(有)光沢	代表取締役	佐藤 亘
(株)サティス製菓	代表取締役	山崎 智士
(株)サンワ製作所	代表取締役	村上 忠彦
(株)サンワ製作所	工場長	山口 公司
(株)シンコーハウス	代表取締役	宇津城 晃一
西武通運(株)	取締役狭山支店長	町田 欽吾
田邊ホールディングス(株)	代表取締役	田邊 光
武蔵野銀行	新座南支店長	桑久保 祐二
武蔵野銀行	川越南支店長	篠田 正浩
ぶぎん地域経済研究所	副部長	藤坂 浩司